



会報

THE ROTARY CLUB OF TSURUOKA
鶴岡ロータリークラブ

第734回例会 1973.12.18 (火) 曇 No.25

例会日 火曜日 12時30分
例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所
会長 安藤定助 幹事 小松広穂

a Time for Action
「今こそ行動のとき」



郷土の民芸品
いづめこ人形

会報はご家族みんなで読みましょう

○出席報告

本日の出席

| | |
|-------|--------|
| 会 員 数 | 66名 |
| 出 席 数 | 56名 |
| 出 席 率 | 84.85% |

前回の出席

| | |
|-------|--------|
| 前回出席率 | 74.24% |
| 修正出席数 | 59名 |
| 確定出席率 | 89.39% |

欠 席 者

阿部(公)君、山本(隆)君、高橋(良)君、
三浦君、小野寺君、中江君、斎藤(信)君
佐々木君、高橋(正)君、中野(清)君

マークアップ

藪田君—山形RC

佐藤(友)君、小野寺君、三井(健)君、嶺
岸君、佐藤(衛)君、金井君、進藤君、山
本(隆)君、風間君—鶴岡西RC

○ビジター

工藤武樹君—鶴岡西RC

○点 鐘

安藤会長

○ロータリーソング「手に手つないで」

○会長報告

安藤会長

今日は特別の会長報告はございません。
今日は久しぶりに早坂ガバナーがおいでに
なっております。ガバナーにおかれまして
は半年間の地区大会をはさんでの公式訪問
を無事に終えられました何よりでございま
した。途中地区大会に引続いての連日の公
式訪問にお体をこわされるんじゃないかと
陰乍ら案じておりましたが大変ご元気なお
顔を拝見しうれしく存じます。後半はこち
らにおられることも多かろうと思いたすの
で本クラブのご指導をよろしくお願い申し
上げます。尚寒さの折柄ご自愛なされ、余
りゆっくりなさってガックリなられない様
ご自重願いたいと思います。

○幹事報告

小松幹事

1. 会報到着

八戸東RC、石巻RC、八戸RC、東京
RC

2. 例会変更

イ、八幡RC 12月19日の例会を

とき 12月22日 16時

ところ 八幡中央公民館

ロ、村上RC 1月3日は休会

とき 1月10日 17時30分

ところ 吉源

ハ、山形RC

とき 12月19日 18時

ところ 丸久松坂屋8階

ニ、山形北RC 12月27日の例会を

とき 12月22日 17時

ところ 産業会館6階

3. 認証状伝達式

徳島南RC

とき 昭和49年3月24日 12時

登録料 7,000円

4. クリスマスパーター開催

イ、鶴岡ロータリーアクトクラブ

とき 12月20日 17時30分

ところ こぶし

登録料 1,000円

その他 200円以内のプレゼントを持
参して下さい。

ロ、思恩園

とき 12月23日 13時15分

ところ 思恩園

5. 適用相場等変更通知 (RI在日財務代行者より)

イ、人頭分担金 1人当り 1,120円

ロ、ロータリアン誌購読料 1口 420円

ハ、ロータリー財団寄附に適用される相
場 1ドル 280円

〇スピーチ ガバナー 早坂源四郎君

私12月7日で61クラブの公式訪問を終えました。これ偏々に当クラブ皆様方の心からのご支援の賜と有難く思っております。

各クラブに参りましても非常な厚意と友情で迎えられましてご覧の様に現在非常に健康体でございます。大体ガバナーとしての任務の約半分以上は済んだと思っております。

ますが任期はまだ来年の6月迄ありますので又何かと仕事に追われることが多いかと思っております。

私11月の末東京で研究会の研修を終えてから12月3日に相馬RCに参りました。同クラブは皆様ご承知かと思いますがこの度1600%のロータリー財団の成績をあげられてまして財団管理委員長から表彰状が送られました非常に立派なクラブでございます。当クラブもロータリー財団の成績は優秀で現在1400%でございますが、私そこに非常に違いのあることを発見致しました。

それは相馬クラブが1600%に達しましたのは全会員が協力してやっているということでありまして。ポール・ハリス・フェローは一人もおられません。これは非常に注目すべきことだと思います。クラブが出来てから会員一人当り毎月300円づつ今日迄続けております。最近は大分準フェローが出ておりましてその為に1600%になったかと思っております。当クラブもそういう意味で1500%以上になりますと表彰状が来ますが、但し矢張り会員が協力しないと表彰状はこないときいております。皆様のご協力をお願い致します。

私今電力さんと原子力の話をしておりましたが、浪江、富岡各クラブに行ったのですが富岡RCの会長は東京電力の第2原子力発電所の建設所長です。現在申請中で過般、福島公聴会も終り国の審議会の決定待ちという話でございました。それから浪江の方はこれ又国際奉仕委員長が東京電力第1原子力発電所の所長でございます。今エネルギー問題で大分騒しくなっておりますが原子力を見学して参りました。それで私感じたことはかって戦争で落されたあの原子爆弾と違ってそれが人類の幸せに転化している事実です。しかも現在第1号基は46万KWの電力を東京に送っているそうです。それから第2号基は既に試運転中で76万KWと思います。第2原発の方では110万KW4基建設の計画でやっております。東北電力さんも浪江の附近に於て今敷地の交

捗に入っております。東京電力さんの方は漁業保障も全部解決しております。一日も早く完成する様願いたいものであります。

これからのエネルギー問題としましては若し石油が駄目となれば原子力か太陽熱か何れかに依り解決しなければならぬと思えます。ただ赤ん坊の様にいたづらに幽霊に怯へるのでなく我々も原子力の色々な機構とかその他につきまして勉強しなければならぬということを痛感して帰って参りました。

こちらに帰って来ましてから月信に追われて1週間、お手許に月信を送っておりますがその中に私の事も書いてございますが事務総長の書簡の中に R・I 会長が次の様な事を言っておられます。「今我々ロータリアンがしなければならぬ事は資源を如何に愛惜するか、先祖から伝っている資源を如何に之を大切に後世に遺すかということであり、我々人間としての責務でもある。それをロータリアンが先頭に立って解決しなければならない。」

と同時に私は相当なショックが来ると思えます。皆様のことを言う様で誠に恐縮でございますが、色々な情勢を考えて見ましても年末から来年にかけて、或はそれが延びるかも知れませんが大きな経済的な一つのレボリューション（革命）が行われるんじゃないかと思われますので、どうかこういう機会に耐えるのは強い精神力だと私自身信じております。ロータリークラブが此の際受け入れると言いますか、それに何かを与えるクラブでなかったら価値がないと思えます。従いまして我々の仲間からは1人も落伍者を出さない様に職業奉仕委員会がもう少し現実を直視して頑張ってくださいと思います。

徒らに昼食を食べる会でなくして、クラブの職業奉仕委員会の方は、商工会議所や何かで供給し得ない心の問題を取り上げて強いリーダーシップをとって頂く様な企業のリーダーを造って頂きたいと思えます。非常に口幅ったい事を申し上げて恐縮でご

ざいでしたが以上私の感想とお願いを申し上げて終らせて頂きます。有難うございました。

○スピーチ

東北電力鶴岡営業所長 野口弥一氏
節電と今後の電力事情について

ただ今ご指名を頂きました東北電力の野口でございます。日頃電気事業運営に当りましては皆様の多大なるご理解とご協力を賜りましてこの席をかり厚くお礼を申し上げる次第であります。

さて石油削減という問題に端を発しまして今日騒がれており、寄るとさわると此の話が出ると思えますけれども、石油の問題と電力の問題、こうした事につきまして本日ここに来て話をして貰いたいというのが依頼がありまして馳せ参じた次第ですが時間もございませんので手短かにご報告させて頂きたいと考える次第であります。

何しろ石油削減に関しましてはアラブ諸国が石油を戦略武器として使いだしたことで、此の前の中東戦争の時から端を発しておるわけであります。今回初めてではないのですけれども、先回はメジャーの備蓄があったので何なく切り抜けたのでした。今回は事情が余程違ひまして、この様な状態であるわけであります。

まあアラブから見て日本は敵国ではないのですけれども、ここまで参りますと日本が世界中で一番パンチを食らっている様な感じでございます。又日本の受けたパンチの中で最も大きいダブルパンチを受けたのが、電気事業ではなからうかと思えます。

まあ何れにしましても、エネルギーの73%を石油に依存するという日本のエネルギー実績を反省して見る必要があるとつくづく思う次第であります。先づ47年度には2億7,000万ℓを輸入しており、その中の約20%が電気生産の燃料として使っているわけであります。我が国で産出する油は殆どありませんので99.7%輸入していると言われております。この100%に近い輸入の中

20%電気の方に使っているわけですが、それは精製の段階で出て来る重油を燃料として使っているのであります。

石油業界或は化学業界の皆様の声がききますと、まあ最近の公害問題、環境問題からいたしましてこの燃料は益々低硫黄分のもの、即ち燃料の軽油移行化の傾向になっているわけです。けれども、これにつきましてもよしんば電気事業が重油を使わなくなったとしたら、どうなるかという問題ですが、石油のうち精製の段階で50%が重油で出て参ります。この大口消費がなくなるわけで、到る処重油の海が出来る結果になります。〇〇湾が重油のたれ流しという話がありますが、それよりもっとひどい状況が来る様な感じがするわけであります。

石油の専門家でない私が申し上げるもおこがましい話ですが、お蔭様で酒田に於きましても、昨日の新聞の報ずる処に依りますと細目協定の締結が地方自治体の皆様方と企業の間で於きまして相成りまして、20日に総理大臣を長とする電源開発審議会に上程される運びになりました。私共は一層この電源確保の線に向って努力をしたいと考えているわけでございます。

まあ日頃発生致します需要或は動向につきましては常に数字を頭におきまして2年先き、3年先き、いや10年先きの事を考えて参ったわけでございますけれども、今回は石油事情という事で、経営で克服出来ない問題が起って参りました。国民の皆様のご心配を煩わしている様な次第ですが、独り企業が乗り超えられる問題ではございません。

どうやら今月初めに新聞の発表する処に依りますと、政府が乗り出しまして電気事業法の中にあります「電力制限」第27条という方向に動いて参っている様でございます。昨今の情報では22日に制限令が公布になりまして、具体的にどの様にやるかという事がはっきりする運びになる様であります。現在ただ今の処私共の承知致しておりますのは、新聞の報道から知る程度しかご

ざいませんで、それ以上の詳しい事につきましては、分り次第報告させていただきます所存でございます。

この辺で東北電力の実情を少くし報告させて頂きますと、常日頃でございますと大体月々40万 kl の油を用意しているわけあります。これは備蓄するタンクの実情から致しまして大体28日分に相当するわけあります。処が11月に始りましたアラブの石油削減という問題に端を発しまして、今日では削減の実情は11月末実績で28.75%の削減になったということをも新聞が報じております。処が今日の朝日新聞には11月の入荷を大蔵省が調べた処、5.4%前年同月比増になっていると報じておりまして、情報は一体どれが本当なのか、全く情報禍時代の感じがするわけであります。

しかし私共の手許に届いている油で判断するしかございませんので、この実情を報告させて頂きます。冬場においては需要が大変増加いたしますので12月分として、518,000 kl の油を発註致しました。現在ただ今の処自信を以て手に入る量は30万〜32.3万 kl であります。多目に見て35万 kl であります。これを%に直しますと67%になります。約33%の量が今の処どうしても見通しがつかない状態であります。そう致しますと手持ちを食潰して行くわけありますので、何とか節電をお願いしたいということで11月の冒頭から夫々大口需要家さんその他の皆様方の処にお邪魔致しましてご要請をして参りました。又一般家庭につきましては報道機関、其の他を通してご要請をして参りました。

処が11月実績を見ますと、仲々成果が思わしくないという実情であります。実は本日の山新の10頁の隅にこの事を報道しております。これは私共が申し上げるのではなくて、山形に於ける有数の山形新聞が報道しているのですから間違いのないと思います。

結果から申しますと大口の3,000 kl 以上の需要家さんにおきましては、これは直接政府の指導でございますので、10%節約に

つきましては可成りの成果が挙っている様でございます。しかしこれも検針を致しましてじっと眺めて見ますと大体6%か7%の成果であります。それ以下のもの500KW~50KWの業務用につきましては、可成りのご協力を賜っております。ビル、デパート、及びこれに類する業種の方であります。一般用の家庭につきましては、これは効果全く挙げず、と言っていい様な状況であります。

尤も50KW未満のものについても同じであります、これは色々分析して見たのですが、電気屋さんのお店に行ってお話をききますと「石油不足の掛声が掛ってから、今迄棚晒しになっておったような電気器具が全然なくなった、あんなものまで買ってくれるんだから驚きだよ」という風な事を言うておりました。恐らくは「石油が…」という声をきかれて急いで求めになり、お使いになり始めたのではなからうかと推定しております。所謂駆け込み需要という風な事のようにあります。それから100KW、200KW以下の小さな工場用の産業用の電力につきましては「もっと石油が苦しくなっていくんだ、苦しくならない中に稼いでおけ」という事がありありと見えるわけがあります。電気の場合はメーターがついておりますから、どのようにお使いになったかは一目瞭然と分るわけでございます。まあそのような事で節電の効果が余りなかったという実績でございます。

私達は電気を売る商売であります。日頃皆様のご愛顧ご晶負を頂いて、この様に電気事業を運営させて頂いているわけで感謝に堪えないわけでございます。けれども今回石油事情という事で、誠に不本意乍ら政府の指導する処に依りまして電力制限という風な格好に移行せざるを得ない様な状況になって参りました。

現在ただ今の処では、大体東北電力の手持ちは14日分、常日頃備蓄しております油の状況の約半分になっております。この儘で行くと非常にピンチに陥ち入ります。そ

こで試算を試みました処電源設備の約1/3を占める水力の出水率が85%という風に見た場合、12月の末では大体6日か7日という数字が出て参ります。それから水力の出水率が75%とみた場合は、2日か3日というピンチに陥ち入るという状況でありますので、これを見ました政府は矢張り電力制限という事に踏みきらなければ、もっともっと国民生活を大混乱に落し入れるという事で、先程申しました様に22日具体的にどの様に実施するかは制限令の公布になる様でございます。

処で制限令はどうなんだという事が皆様方のご関心のあられる処ではないかと思いますが、これはまだ発動されておらない事ですから、不用意に推定や何かで申し上げるのは誠にいかがしい話ではないかと考えます。具体的にどの様になるかという事は22日頃の新聞をとくにご覧頂きたいと思えます。政府からご指導頂きました事につきましては、改めて早速皆様にご報告に参上致したいと考えている次第でございます。

予定しました時間が段々と迫りますので一体それでは電気事業法27条の電力使用制限とはどんな事が書いてあるのか、この法律の内容を一寸ご紹介させて頂きまして終りたいと思えます。これを見ますと制限の仕方につきましては、先ず(1)電力量を定めてする制限、(2)用途を定めてする制限、(3)日時を定めてする制限、もう一つ(4)3,000KW以上の自電用の受電の制限、以上4つの方法であります。特に皆様にご関係があられると思ひまして一言つけ加えさせて頂きますけれども、この中で今迄はどちらかと言いますと、KWの方に多く関心がございました。つまり頭を出して参りますこの制限が多かったわけです。ピークカットと申しております。今度はKWとKWアワーと両面立てで制限が行われます。これは500KW以上のお客さんについてそういう格好になります。これには業種を分けまして、この業種に依って制限の内容が違うわけであ

ります。制限のゆるい業種でも10%カットアワの90%に節電は間違いない様であります。それから48年10月の実績が大体ベースになる様であります。これは検針して数字押えてあります。それから制限令は49年の1月1日からスタートですので、私共は元日から出勤致しまして500KW以上のところの検針を行いません。1日でも2日でも矢張り実績が大切なことですのでお客様とお立合いの上実績を読み合って確認致します。それをスタート致します。500KW以下のものにつきましては1月以降打出される模様です。1月、2月と油の事情に依りまして規制が段階的に次第に強くなって行くという様な事が新聞に報ぜられております。

扱て一般家庭はどうなるかということですが、今迄大学の先生方に言わせると、産業用の占める電力量が非常に多いから一般家庭を構わないで産業用をカットしろとおっしゃるけれども、実業界におられる皆様方は決してそんな無茶な事は言われなと思います。そこで実情を申し上げますと一般家庭を全然構わないで、大口のお客さんだけを対象にした場合、現在の電力の半分以上を切らなければどうにもならないこととあります。そこで政府も「これは大変だ」という事で、一般家庭も規制の仲間に入れるということを新聞は報じております。法律には週2回以内に限って、一般家庭の休電日を設けて電気の節約をして頂くことが書かれております。尚時間は8時から16時迄で、これが最大限度になっていきます。

昭和49年になりますと政治的な色々な行事もありますので自民党は不人気なことは一寸差し控えるんじゃないかと思いますがこれから出て参ります新聞に報ずる処をとくとご覧になれば、私がかんな処で申し上げるより良くお分り頂けると思います。

さて大変嚇かす様な事を申し上げて恐縮なんですけれども、今迄申し上げたのは政府からも、又私共電力会社の系列からも何も言って参っておりません。そこでただ新聞の報ずる処をずうっと、鉄と糊で綴り合せた処がそうなのであります。政府から指示がございましたら、早速先程お約束致しました様に皆様のお尋ね致し

ましてご報告申し上げたいと思っております。

「まあ言うなれば今迄はどうか一つお買取り頂きたいという買手市場の立場でありましたが、今度は石油バニクで電力会社は売手市場の立場になったとも云えます。そこでこのようなときこそ我々の姿勢が将来に向っての企業の運命を決めるのだと思っています。だから売手市場になればなる程、頭を低くして親切に真心を以ておっかえし、この電力の調達、供給に当らなければいけない」と私は考え、朝礼時に従業員に訴えております。またこの姿勢を貫くべくきびしい姿勢で臨み、皆様にご迷惑をかけない様に致して参りたいと決意しております。これから電力ではご不自由をかけるわけですから、せめて私共の真心をお汲み取り頂ける様に努力したいと思う次第であります。まあ事情がどうなるにせよ、永い永い商売をやって行く心算でありますので末永くご虫負頂きたいことをお願い致しまして終りたいと思います。大変有難うございました。

○ロータリー情報委員会示説板

大川喜一君 張紹淵君 山本隆男君

1. 一般質問

33 ガバナーを自己の職務や責任に精通させる為どんな手段がとられていますか？

国際大会に先立って、「国際協議会」とよばれる会合が、理事会の指定する場所で開催されます。この協議会には国際ロータリーの中央役員、地区ガバナー、ノミニ、一部の国際ロータリー委員長及びその他理事会の指名する者が出席します。この会合の目的は参加者一同が協議して次年度の国際ロータリー及び加盟クラブの事業並びに諸活動について協同して計画すること、ロータリー教育、管理の責務についての指示及び親交の機会を参加者に与えるためであります。

3. 一般質問

34 地区協議会とはどんなものですか？地区内の全クラブの次年度の会長、幹事及びその他の指名されたクラブ指導者たちが、その地区のガバナー及び理事会の指名する人たちと共に集まる会合であって、その目的はクラブの管理と活動について協議して、それらに関する知識を得るためであります。